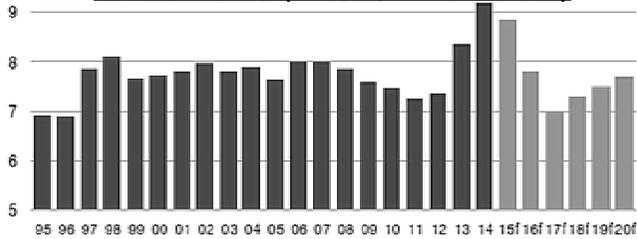


## MLA最新長期予測 2015年は、と畜、生産、輸出、すべて減

## と畜と牛肉生産

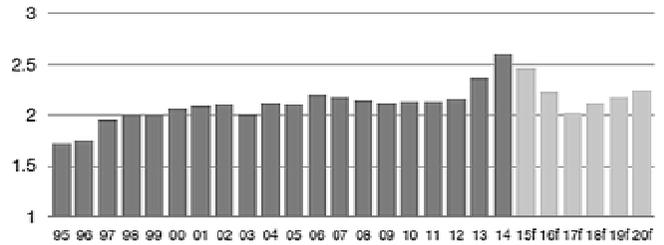
成牛と畜頭数推移(100万頭、15年以降は予測)



2015年1-6月、前年を上回っていた東部州の牛と畜頭数は、長期的な週間平均頭数である13万7千頭に接近してきた。9月のと畜頭数は15万頭から15万5千頭。しかし、2016年1-6月は平均を下回ると見られている。

1-8月の雌牛と畜は過去5年平均比26%増で、

牛肉生産推移(100万ト、15年以降は予測)



今後の牛肉生産の懸念材料となっている。雌牛が総と畜頭数に占める割合も51%で、ここ10年の平均47%と比べるとかなり多い。このため、さらに生産子牛と牛肉生産は減少しそうだ。

2015年のと畜頭数は4%減の885万頭、牛肉生産は3.5%減の246万5千トとなる見通し。

## 牛飼育頭数と出荷の割合

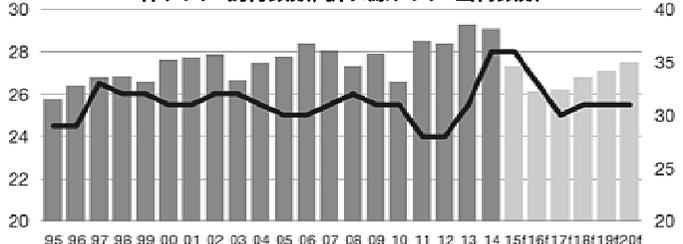
総と畜頭数に雌牛が占める割合(%)



ここ10年平均で、飼育頭数に占める出荷頭数(生体輸出を含め)は31%。この数値を上回れば、生産者はと畜用に出荷をしており、下回る

牛飼育頭数(100万頭)と出荷頭数の割合(%)

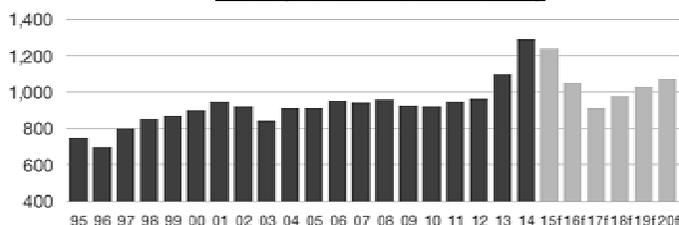
棒グラフ=飼育頭数、折れ線グラフ=出荷頭数



と飼育拡大のための留保を行っていることが分かる。2015年の出荷率がこれまでになかった2年連続で36%となれば、これは異常な状況だ。

## 需要

牛肉輸出推移(1千ト、15年以降は予測)



2015年1-9月の牛肉輸出は前年よりも3万9千ト余多かった。しかし、第4四半期はと畜減で輸出も縮小すると予測されており、2015年の牛肉輸出は124万ト(船積重量)に下方修正された。それでもこの輸出量は過去2番目に多いことになりそうだ。

9月最終週、米の国産90CLの価格はこの1週だけでポンド当たり25 $\text{£}$ (1US $\text{ドル}$ 120円換算で $\text{¥}$ 66

円)も下落し、1週での下落幅としては過去最大。

輸入90CLカウ・ビーフ価格は1 $\text{£}$ 安のポンド当たり229 $\text{£}$ (605円)となり、前年比62 $\text{£}$ ( $\text{¥}$ 164円)安。

米の牛肉市場での価格下落は珍しいことではないが、この下落幅は通常よりも大きい。供給増での価格の下落は年内いっぱい続きそうだ。

豪産牛肉輸出は低関税輸入枠によって、制限されそうだ。また、輸出業者が枠外の関税をどの程度支払うのか、支払うことができるのかによる。

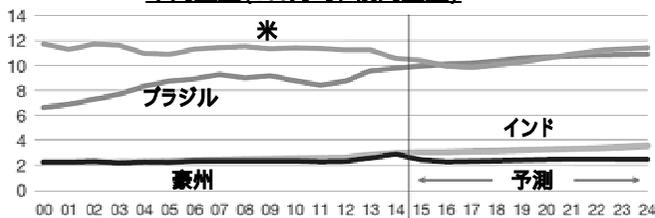
1-9月、対米輸出は24%増、対日は微減、対韓は9%増。しかし、対EUは5%減、中東も12%減、台湾は21%減。

最新豪州長期予測( = 予測)								
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
飼育頭数(1千頭)	29,291	29,100	27,300	26,100	26,200	26,800	27,100	27,500
と畜頭数(1千頭)								
牛	8,344	9,226	8,850	7,800	7,000	7,300	7,500	7,700
子牛	690	688	630	630	625	640	680	700
計	9,034	9,914	9,480	8,430	7,625	7,940	8,180	8,400
平均枝肉重量(キロ)								
牛	278.0	276.8	278.5	280.0	282.0	283.0	284.0	285.0
子牛	58.5	60.1	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0
生産(1千ト、枝肉重量)								
牛肉	2,320	2,554	2,465	2,184	1,974	2,066	2,130	2,195
子牛肉	40.4	41.4	37.8	37.8	37.5	38.4	40.8	42.0
計	2,360	2,595	2,503	2,222	2,012	2,104	2,171	2,237
牛肉輸出 (1千ト、船積重量)	1,099.8	1,294	1,240	1,050	910	980	1,030	1,070

牛肉輸出推移(1千ト、船積重量)								
	2011年	2012年	2013年	2014年	前年比	14年1-9月	15年1-9月	前年比
日本	342.2	308.5	288.8	293.8	2%	212.2	212.0	0%
米	167.8	224.1	212.7	397.9	87%	275.3	340.8	24%
韓国	146.4	126.0	144.4	150.9	5%	109.5	119.1	9%
中国	7.8	32.9	154.8	124.6	-20%	97.0	106.6	10%
カナダ	10.1	15.7	17.9	32.9	84%	24.9	32.6	31%
台湾	36.7	38.3	35.7	36.4	2%	27.9	22.0	-21%
インドネシア	39.6	27.1	39.4	53.1	35%	40.5	25.6	-37%
フィリピン	21.0	25.7	27.0	34.4	27%	23.5	17.7	-25%
シンガポール	9.7	14.1	10.6	10.1	-4%	8.0	6.5	-19%
マレーシア	14.4	15.5	15.9	13.1	-18%	10.3	9.2	-11%
タイ	2.5	2.8	4.3	5.4	27%	2.9	3.6	25%
香港	8.9	6.3	5.1	14.7	191%	10.3	4.9	-52%
EU	12.8	14.9	19.8	24.6	24%	18.9	18.0	-5%
中東	32.1	31.4	61.0	59.8	-2%	47.1	41.3	-12%
その他	97.2	80.4	62.1	35.2	-43%	28.5	15.9	-44%
計	949.2	963.7	1,099.5	1,286.9	17%	936.8	975.8	4%

## 競合国の牛肉生産

牛肉生産(100万ト、枝肉重量)



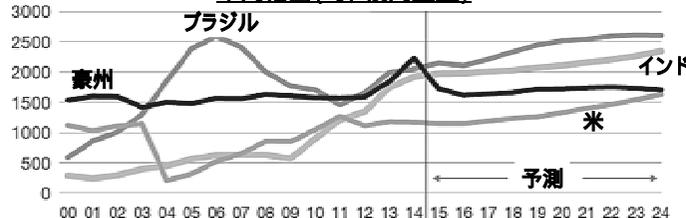
2015年、豪産牛肉生産は記録的な水準を続けているが、2017年にはこれまでで最も少ない197万4千トとなる見込み。

一方、他の主要国ではまちまちの生産となる見通し。

米の牛肉生産は2016年が4%減の997万ト(枝肉重量)に、2017年はさらに1%減となり、980万トとされている。しかしながら、その後、再び生産は増加しそうだ。

ブラジルでの牛肉生産は今後10年間、継続し

牛肉輸出(ト、枝肉重量)



て増加すると見られており、2016年は1千10万ト(枝肉重量)に。2017年は1千20万トに達する見通し。

インドの牛肉(牛とバッファロー)生産は豪産を上回り続け、2016年は310万ト、2017年は312万トとなり、今後10年間、増加を続ける見通し。

競合国での生産増は、豪産牛肉のマーケットシェアにプレッシャーを与え続けることになるだろう。